

派遣報告書

平成 27年 5月 18日

倉吉市議会議長 様

倉吉市議会
(代表) 議員

坂井 徹 

次のとおり行政視察・調査を行ったので、その結果を報告します。

記

1 派遣期間	平成27年 5月 11日 (月) から平成27年 5月 12日 (火) まで
2 派遣先	隠岐島 海工所
3 視察(調査) 議員名	坂井 徹
4 面会者	隠岐國学習センター長 豊田庄吾氏、海工所総務課長
5 派遣目的	教育行政と地方創生の考察のため、吉元操氏
6 視察の経過及び感想	別紙の通り。
7 添付書類	(1) _____ (2) _____

要した経費： / 人合計 28,180 円

1. 海士 隠岐島前高校を視察し。

(目的) 入学者増と課題としての倉吉北高校に何をおぼらぬべきを研究する。

生徒数の減少と実政の危機にある島前高校再生の条件

海士市長 山内氏の「4シフト」の行政改革の目玉として教育改革を掲げ「隠岐島前高校 魅力復活プロジェクト」を立案し「持続可能な夢の実現」「地域の未来のための人材の育成」「持続可能な魅力ある学校の推進」と教育目標としておぼらぬ。

その為には、

(1) 自らの志を元気にする新しい仕事を作り島に帰り とう地域起業家的な精神を持った若者の育成と、生徒たちが実際のまちづくりや高品質な研究、地域社会で活躍するための総合的な人間力を身に付けられるような創設をして — 2017年2月 地元住民と高校を結び結ぶための地域課題の解決、提案を結ぶ「地域学」講座と実践への ⇒ 倉吉も島取組、看護大との交流を促し、又地元と連盟と連携し活動と企画実行の仕組み、或いは調程コースで利州高品質な研究をレブラ製品と全国発信してはどうか。

(2) 島前高校を県外から学生を呼ぶ ことに力をいれよう。

当初は学校限の各大学卒業生への出向やほかの教員を呼ぶにはPR活動と展開にむかひ 行政の工二つは町づくりを全国的に注目と集めることをめし 次第に入学者の増と高校の進歩を促すと思われ。

島前高校には「刺激や競争心がある」。「多様な価値観との出会いがある」。「新しい人間関係の作りかたがある」 異文化や

多様性を取り込み 地元生徒への刺激と高校の活性化を図るため 2/3
成功している。⇒ 倉吉北 高と姉妹高校を作り 交流の場を設け
地球と未来をいかにどうするか。

(1) 海士町は鳥取高校生徒の学力アップの為に公営の学習センターを設け
て大学進学率、進学先共、多大の効果を上げ、県外学生の呼び込みにも貢献
している。週6日 1日 19時~22時の2.5Hの補習を
実施し、夏期講習等も13日 6.7H実施。生徒の謝金も
月額 1.2万円であり、この国の補助金が充てられている。

⇒ 倉吉北高の特進コース充実の為に、これらに準じて取り組むか
で存在しないか。

(2) 上記学習センターでは、さらに週1回「夢ゼミ」も実施。
これは生徒が自分の夢や将来についての発表やディスカッションを通じて夢に
近づけるようにどうするかを考え、何人の為に勉強するのかを考えさせ、島内の
大人や島外著名人を講師とに迎えて実施している。

⇒ 倉吉北高でもすぐ実行可能ではないか。

様々な取り組みの基軸にあるのは、常に目的と意識を明確に
地域と地域住民の課題をとり、共に解決し、地域の課題を
解決できる人肉は世界の課題も解決できる存在等だといふ高邁な
思想に基づいていると感じた。次章へ。

